

特定非営利活動法人
チャイルド・フアンド・
ジャパン
2019年度
年次報告書

ChildFund
Japan

Annual Report 2019



理事長挨拶

チャイルド・ファンド・ジャパンの使命に賛同して活動を見守ってくださる方々に心より感謝を申し上げます。

2019年に日本で開催された「ラグビーワールドカップ2019」での連携を通じて、私自身もアライアンスのメンバーと会い、一緒に働く機会がありました。そして、日本国内の台風被災者への支援においても、チャイルド・ファンドのグローバルな固い絆を感じる1年となりました。

一方、今年度の終わりに、新型コロナウイルスの蔓延で世界は一変してしまい、子どもたちをめぐる生活・教育環境も大きく変わりました。私たちの活動も困難にあうかもしれませんが、希望をもって支援地域の人々と未来を共に作り上げていきたいと願っています。



特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン 理事長

ながやま のぶお
長山 信夫

役員

2020年3月31日現在

顧問	深町 正信	
理事長	長山 信夫	日本基督教団安藤記念教会牧師、同付属幼稚園園長
理事	福嶋 美佐子	特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 支援者代表
理事	岡田 昭人	東京外国語大学教授
理事	小澤 淳一	青山学院初等部宗教主任
理事	鷲見 八重子	和洋女子大学名誉教授、大学女性協会会長
理事	高橋 潤	日本基督教団銀座教会牧師
理事	原島 博	ルーテル学院大学教授
監事	向山 功	株式会社向山商会代表取締役社長
監事	脇屋 元	立花証券株式会社取締役

目次

理事長挨拶／役員	02	事業報告 ベトナム／緊急・復興支援事業	16
チャイルド・ファンド・ジャパン 事業概要	03	広報・啓発・提言事業	18
チャイルド・ファンド・ジャパンの1年	04	様々なご支援・ご参加方法	20
地域開発支援事業	06	チャイルド・ファンド・アライアンス	21
事業報告 フィリピン	08	数字で見るチャイルド・ファンド・ジャパンの1年	22
事業報告 ネパール	10	2019年度会計報告	23
事業報告 スリランカ	14		

チャイルド・ファンド・ ジャパン 事業概要

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。活動を通じ人と人が出会い、お互いに理解を深め、つながることを大切にしています。



1 地域開発支援事業

スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、貧しさの中で暮らす子どもたちが健やかに成長することができるように支援するプログラムです。支援を受ける子どもたちには、教育や保健・栄養など、一人ひとりの必要に応じたプログラムが提供されます。また、家族と地域の自立を目指して、家族の生活改善や住民主体の組織づくりなど、中・長期的視野にたった支援を行います。2019年度は、フィリピン11カ所、ネパール1カ所、スリランカ2カ所で支援を行いました。

支援プロジェクト

貧困に起因する様々な問題の中で、特定の開発課題に応える支援事業です。2019年度はフィリピンで1件、ネパールで4件、ベトナムで

1件のプロジェクトを実施しました。

2 緊急・復興支援事業

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援します。2019年度は、長野県での台風19号への緊急・復興支援事業を1件実施しました。

3 広報・啓発・提言事業

国内でチャイルド・ファンド・ジャパンの活動を広め、理解を深めていただくための事業です。子どもに対する暴力撤廃に向けた提言活動を行ったほか、団体の活動において子どもたちがあらゆる危害から守られるよう、組織体制の強化を進めました。

2019年度の活動の概要

今年度は3カ年の中期計画(2018年4月～2021年3月)の2年次となりました。1年次に引き続き、①視座の高い、②支える、③俊敏な、④責任をもつ、組織となることを目指し、以下の基本戦略4つを柱に活動しました。

1. 「子ども」を中心にすえた活動の徹底

助成金による海外研修や他団体との連携など様々な機会を活用し、子どもへの暴力がない世界を目指して、「子どものセーフガーディング」への組織的な取り組みを進めました。

2. 地域開発支援事業モデルの再構築

スポンサーシップ・プログラムを見直し、子どもの権利に基づいて、子どもとその保護者などの責務者へ働きかける支援のあり方をふまえ、プログラム・フレームワークの作成を推進しました。さらに、外務省やアライアンスなどからの多様な資金により、スポンサーシップ・プログラム以外の支援事業を拡大しました。

3. 変革をもたらすコミュニケーションの強化

ラグビーワールドカップ2019において、ワールドラグビーの公認チャリティパート

ナーとして、アライアンスと連携しながらファンドレイジングと広報に取り組みしました。

4. 組織力の強化

本年度から公益法人会計に移行し、資金管理をより明確に行いました。



アライアンスからの資金で建設した校舎の竣工式

チャイルド・ファンド・ ジャパンの1年

1年を振り返って

2019年度は、ネパールで災害に強い学校づくりプロジェクト1年次が無事に終了し、国内では台風19号緊急支援を実施しました。また、日本で開催されたラグビーワールドカップには、公認チャリティパートナーとして参加しました。年度末には、新型コロナウイルスの影響が事業地でも出始め、新たな局面に向かうことになりました。



4月



京都で支援者交流会

支援者の皆さまの交流会を開催しました。お互いの支援の話を聞くことができ、有意義なものとなりました。

7月



チャイルド・ファンド パス・イット・バック イベント開催

アジアラグビーの主催により、大分県別府市で「チャイルド・ファンド パス・イット・バック カップ Delivered by DHL」が開催されました。オーストラリア、ラオス、日本の3カ国の子どもたちが参加し、ラグビーを通じてライフスキルを学び、国際交流を深めました。

9月

高嶋ちさ子さんの コンサートツアー

「高嶋ちさ子 12人のヴァイオリニスト」の皆さまが、コンサートツアーを通じ、各会場で募金活動を行っていただきました。

9月

物品寄付 「お宝エイド」の 受付開始

家で眠っている品物を寄付することでNPO団体を支援するプログラム「お宝エイド」と協働し、物品寄付の受付を開始しました。従来の古本に加え、物品寄付の選択肢が増えました。

2019▶

4月

5月

6月

7月

8月

9月

6月

杉並人図鑑の番組に スタッフが出演

杉並区内で活動する人々を紹介する「COM 杉並の番組「杉並人図鑑」に団体スタッフの小保方（コミュニケーション・マーケティング部長）が出演しました。団体の紹介に加えて、今後への想いを語りました。

7月

スポーツを支える人× 事務局長 インタビュー対談連載開始

ラグビーワールドカップ開催に合わせて、スポーツを支える方々とチャイルド・ファンド・ジャパン事務局長武田とのインタビュー対談を団体ホームページで連載しました。国際協力でも大事な「支える」ことの大切さを、皆さまが身近なスポーツの世界から語ってくださいました。

8月



ゴスペルチャリティーコンサート

NGOゴスペル広場が主催するチャリティーコンサートにブースを出展しました。ネパールで行う活動へのご支援を、PR映像などを通じて呼びかけ、多くのご寄付をいただきました。

8月

九州北部豪雨被災地 初動調査

シャンティ国際ボランティア会と協働し、九州北部豪雨で特に被害の大きかった佐賀県武雄市、大町町の被害状況の初動調査を行いました。

9月



ラグビーワールドカップ2019 日本大会開幕

チャイルド・ファンドは、大会を主催するワールドラグビーの公認チャリティパートナーとして参加しました。開会式では、チャイルド・ファンドなどが招いた日本とアジアの子どもたちが旗手を務めました。

9月



ネパール「災害に強い学校づくりプロジェクト」校舎完成の竣工式

2018年11月から始まった、校舎の建設と学校の防災体制づくりを支援する「災害に強い学校づくりプロジェクト」は1年次を無事に終え、外務省の日本NGO連携無償資金協力と、皆さまからのご支援により建設された校舎の完成を祝いました。

10月



令和元年台風19号被災者支援

台風19号で氾濫した長野県・千曲川近辺の被災地を中心に緊急・復興支援を開始しました。シャンティ国際ボランティア会と協働し、子どもの居場所づくりや傾聴サロンの運営などの支援を行いました。

12月



台風19号被災者支援の活動報告会

シャンティ国際ボランティア会と共催し、被災地で活動を行うスタッフが現状を語る報告会を行いました。被災地での子どもたちへの支援などをご報告しました。

12月



「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーン第10弾

書き損じハガキなどを活用して、ネパールの子どもの学ぶ環境を整えるキャンペーン第10弾を実施しました。皆さまからご協力いただいた結果、712,546円分のご寄付となりました。

1月

フィリピン火山噴火

フィリピンの首都マニラ近郊の火山が噴火しました。協力センター35の支援地域では、灰や泥が積もる被害が出ましたが、チャイルドやその家族に人的な被害はありませんでした。

1月



「子どもと若者のセーフガーディング最低基準のためのガイド」発行

子どもを取り巻く多様かつ複雑なリスクを未然に回避し、子どもを守るうえで有効な体制や手続きをまとめたガイドを、他団体と共同作成しました。

3月

新型コロナウイルス感染拡大

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大により、東京事務所、現地事務所とも、在宅勤務を取り入れながら、事業を進めていきました。

10月

11月

12月

2020 ▶

1月

2月

3月

11月

ラグビーワールドカップ閉幕

チャイルド・ファンドが、厳しい環境におかれている子どもたちのために活動していることを広く世界に知っていただく、またとない機会となりました。

11月



熊本で支援者交流会

支援者の皆さまの交流会を開催しました。スタッフから活動報告を行い、交流会では皆さまが支援の話を通じて親睦を深めました。

3月



「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーン10周年特別懇談会

杉並区役所で、区長をはじめとした関係者参加のもと、キャンペーンご報告の動画を上映し、これまでの経緯と成果をお伝えしました。区民の皆さまからのご支援が、確実にネパール現地に届けられ、区民・行政との協働が実を結んだ10年間であったことをご報告する良い機会となりました。

地域開発 支援事業

子どもの健全な成長と地域の自立を目指す包括的な支援を行う「スポンサーシップ・プログラム」、貧困に起因する様々な問題において特定の開発課題に応える「支援プロジェクト」を実施しています。



チャイルド・ファンド・ジャパンが取り組む6つの分野

教育	学用品の配布や学校設備の整備など、子どもたちが勉強を続けるための環境を整えます。	子どもの保護	「子どもの権利条約」に基づき、子どもの権利を守るための活動を行います。	保健・栄養	子どもたちが健全に成長できるよう、補食プログラムや健康診断などを行います。
家族の生活改善	子どもの親に職業訓練や収入向上プログラムを提供し、家族の生活改善を目指します。	自己啓発	積極的に生きる姿勢を育み、子どもたちの内面的な成長を支えます。	住民主体の組織づくり	地域が支援から自立することを目指し、住民組織を強化するプログラムを実施します。

Sponsorship Program スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、貧しさの中で暮らす子どもたちが健やかに成長できるように支援するプログラムです。支援を受ける子どもたち(チャイルド)には、教育や保健・栄養など一人ひとりの必要に応じたプログラムが提供されます。また、家族と地域の自立を目指し、家族の生活改善や住民主体の組織づくりなど、中・長期的な視野にたった支援を行います。

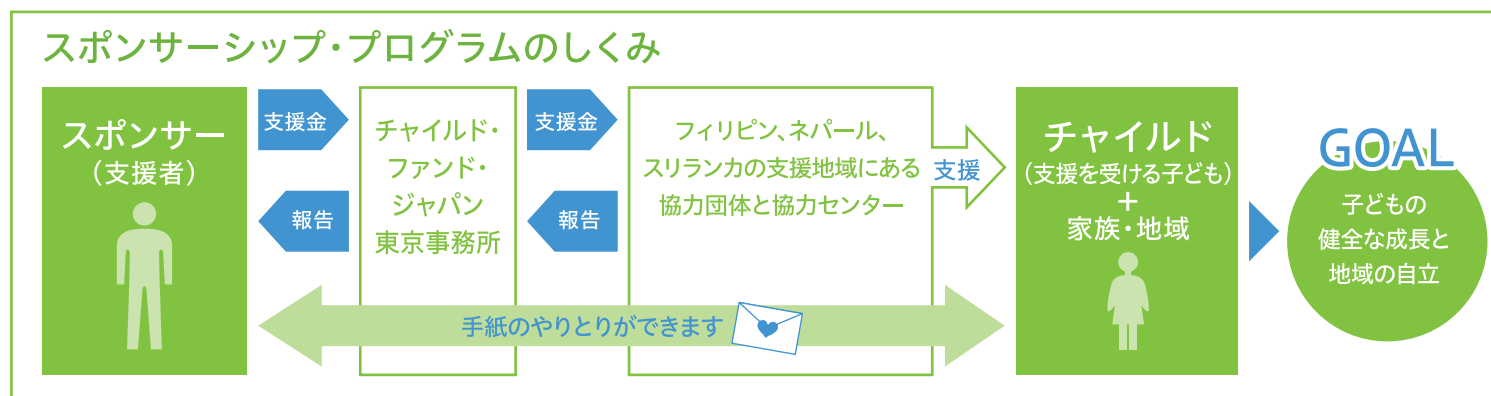
スポンサーシップ・プログラムが 目指す2つのゴール

GOAL 1 チャイルドの健全な成長

将来を担う子どもたちへの教育、健康に生活するために必要な保健・医療など、一人ひとりの必要に応じた支援をしています。

GOAL 2 地域の自立

チャイルドの家族や地域の人々へ、職業訓練や住民組織の立ち上げ、小規模事業資金の融資などを行っています。



Special Assistance Program

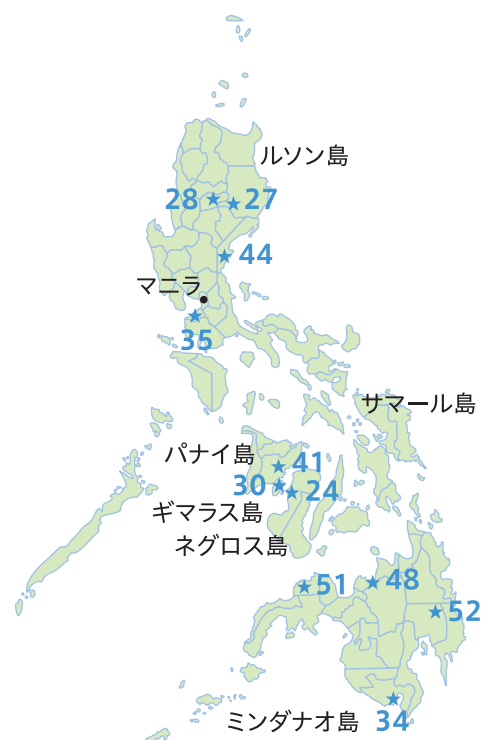
支援プロジェクトについて

支援プロジェクトは、貧困に起因する様々な問題のうち特定の開発課題に応える事業です。学校環境整備、子どもの権利、児童労働、早期婚、保健、栄養、安全な水へのアクセス、収入向上、小規模ビジネス、協同組合事務所、少数民族など、その地域、環境において必要とされる課題に取り組んでいます。スポンサーシップ・プログラムと相互補完的に、子どもたちの健全な成長を支えています。

2019年度 スポンサーシップ・プログラム支援地域一覧

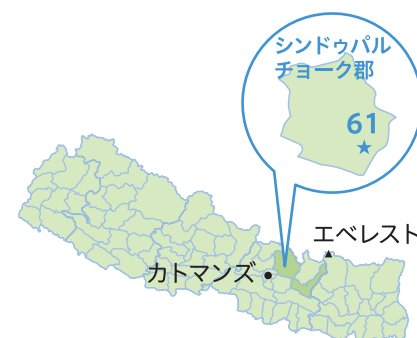
フィリピン

センター番号	事業地	チャイルド定員数*1	事業期間	協力パートナー
24	中部ビサヤ諸島 西ネグロス州	297名	2014.6~2024.5	The Congregation of the Augustinian Missionaries of the Philippines
27	北部ルソン イサベラ州	426名	2014.6~2024.5	Pamanang Panuluyan ng La Salette, Inc.
28	北部ルソン イフガオ州	136名	2017.6~2020.5	Saint Mary Magdalene Parish
30	中部ビサヤ諸島 ギマラス州	398名	2017.6~2024.5	チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所
34	南部ミンダナオ 南コタバト州	442名	2014.6~2024.5	Notre Dame Business Resource Center Foundation, Inc. (NDBRCFI)
35	北部ルソン カピテ州	373名	2016.6~2020.5	Magdalena Human Development Foundation
41	中部ビサヤ諸島 イロイロ州	383名	2018.6~2023.5	Janiuay Calvario Community Center, Inc.
44	北部ルソン オーロラ州	399名	2014.6~2024.5	St. Francis Center - Integrated Arera Development for Aurora, Inc.
48	南部ミンダナオ 東ミサミス州	300名	2018.6~2023.5	チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所
51	南部ミンダナオ 北サンボアンガ州	398名	2014.6~2024.5	Mindanao Resource Institute for Community Empowerment Inc. (MINRICE)
52	南部ミンダナオ 北ダバオ州	150名	2016.6~2021.5	Davao Medical School Foundation, Institute of Primary Health Care
		計 3,702名		



ネパール

センター番号	事業地	チャイルド定員数*1	事業期間	協力パートナー
61	シンドゥパル チョーク郡	568名	2016.4~2021.3	Tuki Association Sunkoshi
		計 568名		



スリランカ

センター番号	事業地	チャイルド支援数*2	事業期間	協力パートナー
4049	プッタラム県	147名	通年	VOICE Area Federation Puttalam
4231	ヌワラエリヤ県	175名	通年	T-Field Child Development Federation
		計 322名		



*1.チャイルド定員数には、スポンサーの紹介を待っているチャイルドの数も含まれています。

*2.数字は2020年3月31日時点。

2019年度
支援チャイルド数

3,702

支援対象 フィリピンすべての協力センターのチャイルド3,702名と
その家族3,654世帯、地域住民 約20,100名
事業費 121,402,000円
事業期間 5年毎の長期(毎年6月～5月)

2019年度にフィリピンで実施したスポンサーシップ・プログラムと支援プロジェクトについてご報告いたします。スポンサーシップ・プログラムでは、ルソン島、ビサヤ諸島、ミンダナオ島にある11の協力センターと協働し、3,702名のチャイルドを支援しました。そのうち35%が幼稚園や小学校(幼稚園～6年生)、65%がジュニアハイスクール・シニアハイスクール(7年生から12年生)に通って勉強しました。

Sponsorship Program

スポンサーシップ・プログラム

チャイルドへの支援

学校に通い続けるための教育支援

スポンサーシップ・プログラムでは、経済的に困難を抱える子どもたちに対して、学用品や交通費などの支援を行っています。今年度は、255人のチャイルドが、支援によってシニアハイスクールを無事に卒業することができました。

また、栄養・健康に関する研修や健康診断、低栄養の子どもたちへの補食の支援も行っています。特に、2019年はフィリピン全土でデング熱が流行したため、予防のための活動を、早い段階から研修に盛り込むようにしました。

さらに、今年度は、チャイルドたちのシニアハイスクール卒業後の進路について、調査を実施しました。その結果、2019年に卒業した198人のうち、約140人が大学に進学し、勉強を続けている

ことが明らかになりました。



健康診断を受ける子どもの様子

子どもの保護の推進

子どもの保護に関する取り組みも進めています。チャイルドとその保護者たちそれぞれに対して、法律に関する情報も交えながら、子どもの権利と子どもに対する責任についての研修を行いました。

子どもも家族も、健やかに 安全に生活するために

チャイルドとその家族が、日々の食糧を入手し、必要な栄養をしっかりととることができるよう、家庭菜園の取り組みを進めています。今年度もほぼ全センターで取り組みを継続しました。

また、体罰によらない育児の方法や、子どもの保護、家計管理などに関する研修も実施しました。

防災については、重要課題の一つと位置づけ、非常持ち出し袋の用意、リスク軽減についての学習などを行い、個人や家庭、地域全体の防災能力を高めていくようにしています。



災害時の緊急対応委員会も発足しました

地域の自立のために

スポンサーシップ・プログラムでは、支援地域の自立を目指して、住民主体の組織づくりなど中・長期的な視野にたった支援も行っています。

今年度は、住民組織の代表や村の行政官が、活動事例のある村へ視察訪問をしました。支援の効果的な展開事例について、具体的なノウハウを学ぶことができました。



視察訪問をふまえてつくられた種苗園

Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

みんなで守る子どもの権利プロジェクト

協力パートナー	フィリピンのすべての協力センター
支援対象	チャイルド3,702名、センタースタッフ約30名
事業期間	2019年4月1日～2020年5月30日
支援規模	20,120,000円(ぽかぽか基金等からの助成金により実施)

合い、手洗いやごみ問題などに関するセミナーの開催、地域の清掃活動、ポスター等の作成、植林や野菜栽培、啓発のためのデモ行進、子どもたちの中でのリーダー育成などに取り組みました。

また、過去のプロジェクトで取り組んだ知識や技術の習得・普及状況を確認するとともに、評価活動として、子どもや地域のおとな、行政機関へ聞き取り調査を行いました。



正しい手洗いのしかたを教えるチャイルドの代表

背景と事業目的

子どもの保護を推進し、子どもの権利が守られる社会を目指して、2014年よりプロジェクトを実施しています。2019年度は、水と衛生について子どもたちが正しく理解すること、また、それを子ども主体の活動を通して各地域で普及させることを目的としました。

活動概要と成果

各センターのチャイルドの代表が集まり、活動報告や研修などを行う「子ども会議」を今年度も実施し、11のセンターから代表2名とセンタースタッフ1名が参加しました。水と衛生に関する知識とその普及方法を学習し、それをもとに、普及活動を子どもたち自身が企画・実施しました。具体的には、保健所や役所などの話し

NEPAL ネパール

2019年度
支援チャイルド数

568

支援対象

シンドウパルチョーク郡の公立学校7校のチャイルド568名、その他生徒558名、教師88名、学校運営委員会(SMC)・PTA役員126名

事業費

37,216,000円

事業期間

5年毎の長期(毎年4月～3月)

ネパールでは、2016年度からスポンサーシップ・プログラムを開始したシンドウパルチョーク郡で、公立学校の教育活動の質の向上と、学校運営体制の強化を進めました。また、4つの支援プロジェクトを実施し、耐震性の高い校舎の建設や防災教育、先生の指導力向上のための研修などを行いました。

Sponsorship Program

スポンサーシップ・プログラム

ネパールの教育制度は、1～8年生が基礎教育、9～12年生が中等教育となっており、基礎教育の部分が日本の小中学校にあたり、無償の義務教育です。

小学校1年生の入学率は97.2%となっていますが、義務教育修了の割合は69.9%にとどまっており(2017年)、先生の数の不足、教育の質など、数多くの課題を抱えています。

女の子に対する教育を軽視する傾向があることや、カーストによって教育の機会を得ることができないなど、社会的な慣習の問題もあります。

さらに、2015年のネパール大地震で大きな被害を受けたシンドウパルチョーク郡では、今でも学校や日常生活に大きな影響が残っています。

こうした状況に対し、すべての子どもたちが質の高い教育を受け、学び続けることができるように、学校運営の改善、先生への研修、PTAを含めた学校運営委員会の能力強化などの支援を行っています。



学校の子どもの様子

支援内容と成果

生徒の出席率の向上

支援を行っている7校のうち5校では、生徒の平均出席率が70%以上に向上しました。全体平均では89%となっています。

こうした成果は、事業活動で推進した、学校と生徒の親との密接な連携から生まれました。学校が親との会合を定期的に行い、教育の必要性、生徒の成績の状況、出席状況をしっかりと共有するようにしました。

特に、対象校のうちの2校では、「子どもクラブ」の活動として、学校への出席を働きかけており、このことも出席率の向上に大きく貢献しました。



生徒の学習状況を共有する、先生と保護者たち

生徒の成績の向上

出席率の向上とともに、生徒の学力の向上も目指しました。

今年度は、7校のうち2校で、生徒の平均成績が目標である72%を達成しました。全体平均では64%にとどまっていますが、2021年度までに75%を達成する目標に向かって成果が上がってきています。



真剣に学習に取り組む子どもたち

先生の質の向上

生徒の成績の向上には、先生に対する研修・支援を充実させることが大きく貢献しています。

具体的には、学習指導法に関する研修、教材開発の支援を行い、クラス運営能力の向上も目指しました。

こうした研修の成果を測定するため、先生の評価も行っています。教科書以外の教材を活用したか、時間通りに出勤したか、教科ごとの評価を実施したかといった基準で評価を行い、今年度は89%の先生が基準をクリアし、目標としていた71%を超えることができました。



ベテランの先生が学習指導のポイントなどを教えます

学校運営委員会の能力強化

ネパールでは、町が教育行政の責任を負っていますが、各学校でも学校運営委員会を設置して年間の活動計画を策定し、運営・管理を担っています。

スポンサーシップ・プログラムでは、学校運営委員会の研修・会議を支援し、子どもたちに質の高い教育を提供できるようにしています。また、PTAメンバーがより積極的に委員会の活動へ参加し、協力して学校を支えられるようにサポートしています。



現地のNGOスタッフも参加し、学校の運営について話し合います

Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト(第3期)

協力パートナー

TUKI (Tuki Association Sunkoshi)

*子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO

GMSP (Gramin Mahila Srijansil Pariwar)

*女性や子ども、抑圧されたグループの権利の推進を目指す現地NGO

支援対象

シンドウパルチョーク郡の公立校16校

支援規模

生徒1,586名、教師98名、学校運営委員会(SMC)・PTA役員277名

30,476,000円

(フェリシモ「地球村の基金」「ラブアンドピースプロジェクト2018」からの助成金を含む)

事業期間

2019年4月1日～2020年3月31日

平均70%を達成しています。

先生の能力強化については、教材を活用したか、定時に出勤したかといった項目で評価を行い、14校で77%～92%の達成率となりました。さらに、学校運営委員会やPTAの活動により、親の教育に対する姿勢の改善、子どもの権利についての理解の深まりが見られました。

また、1校で手洗い場とトイレを建設し、対象校全校で安全な水が飲めるろ過機、学用品、リュックの提供を行いました。

背景と事業目的

このプロジェクトは、学校や地域の人々とともに、教育を中心に子どもが健全に成長できる環境を整えることを目指しています。「幼稚園から5年生までの学力と出席率の向上」「学校の施設改善」「先生の能力強化」「学校運営委員会の能力強化」を目的として活動しています。

活動概要と成果

支援を行っている16校のうち8校で、生徒の成績が目標である平均60%を達成しました。出席率についても、8割の学校で



提供されたろ過機を運ぶ子どもたち

Special Assistance Program 2

支援プロジェクト 2

シンドウパルチョーク郡での「子どもの安全と保護のための子どもにやさしい学校」能力強化プロジェクト

協力パートナー

GMSP (Gramin Mahila Srijansil Pariwar)

*女性や子ども、抑圧されたグループの権利の推進を目指す現地NGO

支援対象

シンドウパルチョーク郡の公立学校1校(マンガラマイ校)の

生徒341名、教師15名、学校運営委員会(SMC)・PTA役員20名、

地域住民2,761名

支援規模

26,222,000円(チャイルド・ファンド・コリアからの助成金により実施)

事業期間

2018年5月1日～2019年11月30日

背景と事業目的

2015年の大地震で被害を受けた学校で、耐震性の高い教室の建設などの教育環境の改善、学校の運営・防災能力の強化、子どもの保護についての能力強化を目的として、事業を実施しました。

活動概要と成果

耐震性を備えた12の教室の建設を行い、机、いす、本棚などの備品を整備しました。男女別のトイレの整備、子どもに使いやすい

手洗い場1カ所の建設も行い、「子どもにやさしい学校」づくりを目指しました。また、学校防災委員会を中心に学校防災計画を作成したほか、防災備品の配布も行いました。

子どもたちが主体となって「子どもの保護」を実践する「子どもにやさしいアカウンタビリティ」の活動も実施し、子どもたちと学校と一緒に、学校の「子どもの保護政策」文書を作成しました。

さらに、事業が支援した研修を通し、町が行政機関として「子どもの保護委員会」を立ち上げ、「子どもの保護ガイドライン」を作成しました。



安全な水が使える手洗い場

Special Assistance Program 3

支援プロジェクト 3

■ シンドゥパルチョーク郡における 「被災学校の再建と防災能力強化」プロジェクト(1年次)

協力パートナー	TUKI(Tuki Association Sunkoshi) *子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO
支援対象	シンドゥパルチョーク郡の公立学校5校 生徒1,025名、教師50名、学校運営委員会50名、地方自治体職員2名
支援規模	34,646,000円(日本NGO連携無償資金の助成と寄付金により実施)
事業期間	2018年11月27日～2019年11月26日

運営委員会が中心となって学校安全計画を策定し、地震を想定した避難訓練を行いました。

また、災害時だけでなく日常での性被害のリスクについても話し合いを行い、ハザードマップを作成して、リスクを回避するための対策を検討しました。

背景と事業目的

地震で被災した学校で、防災能力の強化、災害時および平時における子どもの保護についての能力強化などを目的に支援を行っています。

活動概要と成果

耐震性の高い校舎1校と手洗い場1カ所の建設を行うとともに、校舎から校庭に降りる通路に手すりや階段を設置し、学校周囲の安全柵を整備しました。対象校のうちの1校では図書室の整備も行いました。

先生への防災研修、生徒への防災学習に基づき、各校で学校



避難訓練では、バッグで頭を守ります

Special Assistance Program 4

支援プロジェクト 4

■ シンドゥパルチョーク郡における 「被災学校の再建と防災能力強化」プロジェクト(2年次)

協力パートナー	TUKI(Tuki Association Sunkoshi) *子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO
支援対象	シンドゥパルチョーク郡の公立学校4校 生徒587名、教師・学校運営委員会40名、地方自治体職員2名
支援規模	7,810,000円(日本NGO連携無償資金の助成と寄付金により実施)
事業期間	2019年12月17日～2020年12月16日

また、学校運営委員会の学校防災の能力強化のため、防災研修・防災訓練を計画していますが、現在、人が集まることが禁止されているため、延期しています。教育省の許可が下り次第開催する予定です。

背景と事業目的

地震で被災した学校で、防災能力の強化、災害時および平時における子どもの保護についての能力強化などを目的に支援を行っています。

活動概要と成果

新たに耐震性の高い校舎1校と手洗い場1カ所、屋外トイレの建設を進めています。新型コロナウイルスの影響により、若干の遅れが生じています。



建設中の校舎の様子



2019年度
支援チャイルド数

322

支援対象 プッターム県、ヌワラエリヤ県の322名のチャイルドと家族、
地域住民1,354名
事業費 14,173,000円
事業期間 5年毎の長期(毎年7月～6月)

2019年度のスポンサーシップ・プログラムによる取り組みと成果をご報告します。スリランカでは、乳幼児期・学齢期・青少年期の子どものライフステージに応じて、栄養・教育・ライフスキル、職業訓練、防災をはじめとした活動を行っています。2019年度は、2県の対象地区の322名のチャイルドが日本のスポンサーの方からの支援を受けてプログラムに参加しました。

Sponsorship Program

スポンサーシップ・プログラム

乳幼児期(0歳から5歳)

乳幼児期の子どもにとって重要なのは、安全で安心な衛生環境や医療体制を整え、健康的な発達と成長を支えることです。チャイルド・ファンド・ジャパンの支援地域では、年齢相応の発育状況に達していない子どもたちも少なくなく、衛生や栄養に関する支援が重要な課題となっています。

スポンサーシップ・プログラムでは、乳幼児期のチャイルドをもつ保護者や関係者に対して、栄養や食事に関する研修を行い、子どもの成長に必要な栄養のある食事の知識を身につけることができるように支援しました。

学校や保育園では、チャイルドに対して正しい手洗いのしかたの指導を行いました。また、安全な飲み水へのアクセスを改善する取り組みなども行いました。



栄養価の高い料理のデモンストレーション

さらに、歯石除去や口腔衛生の技術を持った助産師や看護師を地域で育成するとともに、病気の予防と地域での衛生環境の向上に取り組む母親リーダーの育成を行いました。

「子どもの保護」についての啓発活動も進め、歌とショートフィルムを取り入れたイベント、凧あげ大会やウォーキングイベントを行いました。「地域での子どもの保護」の必要性や重要性を理解してもらうことで、実際に子どもの保護に取り組む保護者や幼児施設、村の子育て委員会などが増えました。

「子どもの保護」を凧あげで訴える



学齢期(6歳から14歳)



先生に対する研修の様子

学齢期の子どもが、しっかりと学校に通い続け、質の高い教育を通して学力を高め、自信を持って生きていく基盤づくりを行えるようにすることが、この年代の子どもたちへの活動になります。

学校へ通うことができていないチャイルドや、通えなくなる可能性が高いチャイルドに対しては、家庭への経済的な生計支援も含め、それぞれの状況やニーズにあった支援を行いました。その結果、通学を再開するチャイルドも現れ、一定の成果が見られました。

障がいのあるチャイルドに対しては、リハビリの機会を提供する取り組みも行っています。

教育の内容についても改善をはかることを目指し、教員に対する指導法の研修を行いました。研修によって、特に、成績が振るわない子どもに対する教育について、質の向上が見られました。

また、学校環境の整備を行うとともに、教科学習だけでなく、スポーツや音楽、子どもクラブの活動を通して、情操面の育成も図れるようにしました。

青少年期(15歳から24歳)

青少年期の子どもたちには、職業意識を育み、自分自身を守る力を身につけ、社会の一員として社会活動に関わっていただけるように支援を行いました。

特に今年度は、求職サイトの開設やOJT(実務を経験しながら学ぶ職業教育)の実施、職業訓練コースの新設、ジョブフェア(合同就職選考会)への参加支援などを行い、チャイルドが自立し、実社会へと歩んでいけるような取り組みを行いました。特にジョブフェアには、578名が参加し、そのうち351名が面接を受け、31名の就職が決まりました。

また、青少年のグループが、地域で性教育に関する啓発活動を行ったほか、地域防災委員会を備えるコミュニティが6つに増え、青少年たちがエコ防災事業に参加しました。地域の青少年たちが、自分たちの地域社会に主体的に関わる姿が見られました。



ジョブフェアでの子どもたちの様子

VIETNAM ベトナム

Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

パス・イット・バック・プログラム

支援対象 ホアビン省キムボイ県の子ども51名
事業期間 2019年9月～12月
支援規模 2,683,000円

背景と事業目的

「パス・イット・バック・プログラム」は、チャイルド・ファンドがワールドラグビー、アジアラグビーと協働して実施している青少年のためのプログラムです。タグラグビー*を取り入れたカリキュラムを通じて、貧困などの困難な立場にあるアジアの子どもたちが、日常の様々なリスクに対処するためのライフスキルを身につけることを目的としています。

活動概要と成果

9月～12月の秋シーズンは、ジェンダーについての理解を深めることを目的にプログラムを実施しました。コーチ34名とプレー

ヤー17名にのべ272回のセッションを行いました。

*ラグビーを基にした年少者や初心者向けの競技。タックルではなく、腰に付けた布(タグ)を取ると相手の動きを止めることができるというルールになっているため、安全でプレイしやすい。



たのしみながらライフスキルを身につける子どもたち

緊急・復興支援事業

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援する事業です。チャイルド・ファンド・ジャパンは緊急・復興支援のためのガイドラインに沿って、被害の規模や支援体制の整備状況などを踏まえて支援を実施しています。

令和元年台風19号被災者への緊急支援

Nagano

協力パートナー シャンティ国際ボランティア会、ながのこどもの城いきいきプロジェクト
支援対象 長野市などの被災者約2,000名
事業期間 2019年10月～2020年10月
支援規模 13,930,000円(ワールドラグビー等からの寄付金により実施)

背景と事業目的

2019年10月に上陸した台風19号により、長野県は記録的な豪雨に見舞われました。千曲川の決壊をはじめ、河川の氾濫が相次ぎ、甚大な被害が発生しました。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、シャンティ国際ボランティア

会と協働し、子どもや高齢者を中心とした被災者のサポートを実施しました。

活動概要と成果

■ 初動調査

初動調査では、スタッフ2名を派遣し、長野市などの避難所を中心に調査と物資の配布を行いました。特に物資の配布については、消毒用のハンドジェルや体を拭くボディシート、ナプキン、基礎化粧品といった、被災直後に必要性の高いものを配布しました。

■子どもの居場所づくり

初動調査をもとに、その後の支援活動では、子どもの居場所づくり、傾聴サロンの運営、本の寄贈などを行いました。

子どもの居場所づくりでは、長野市の子ども支援団体「ながのこどもの城いきいきプロジェクト」と協力し、託児や子どもの見守りなどの活動を行いました。日中、保護者が仕事や家の片づけなどで離れている間、子どもたちの食事や遊びを見守り、生活リズムが守れるように支援しました。



避難所内の子どもの居場所で遊ぶ子どもたち

■学習スペースの設置

避難所生活が長引くにつれ、勉強したいという子どもや、勉強の遅れを心配する保護者が増えてきました。避難所内には勉強できるスペースがなかったため、新たに学習スペースを設置し、その運営を行いました。

特に、受験を控えた中学生や高校生には好評で、繰り返し活用する子どももいたようです。

スペースを利用する子どもたちは、みんなが落ち着いて勉強に取り組めるよう、自発的にスペースの使用のルールを決めました。不安やストレスを抱えた状況でありながらも、お互いを思いやる温かい気持ちが垣間見られました。



避難所の学習スペースで勉強する子どもたち

■傾聴サロンの運営

高齢者の方に対しては、心のケアを目的として傾聴サロンの運営を行いました。

日中、引きこもってしまいがちな高齢者の方々に対して、自由に話ができる場所を提供し、不安やストレスを和らげることができるようになりました。話を聞か中で、高齢者の方々が抱える課題やニーズも把握することができました。

避難所閉鎖後も、引き続き公会堂などで傾聴サロンを継続し、被災者一人ひとりに向き合い、少しでも安心して過ごせるよう、支援を継続しました。



避難所での傾聴活動

■図書館への本の寄贈

千曲川の決壊により大きな被害が発生した千曲市では、図書館が床上浸水し、児童書を中心に1,000冊以上を廃棄せざるを得なくなりました。また、長野市の児童センターでも床上浸水が発生し、約2割の本が被害を受けました。

図書館や本は、被災者のたのしみの1つであるだけでなく、子どもたちの学びにもなる大切なものです。しかし、行政の支援は、より緊急性の高いものが優先され、図書館の再建や本の再購入などは後回しになりがちという実態もあります。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ネパール大地震の支援活動の際に、図書室の復旧・設置にかかわりました。その経験をふまえ、シャンティ国際ボランティア会と協力し、合計約910冊の蔵書の支援を行いました。



図書館寄贈書を千曲市の岡田市長へ手渡す様子

広報・啓発・ 提言事業

チャイルド・ファンド・ジャパンは「すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成」というビジョンの実現のため、広報・啓発・提言事業を重要な活動と位置付けています。一人ひとりの子どもの権利が尊重され、守られるよう、団体や活動に関する情報を広く発信します。また、チャイルド・ファンド・アライアンスと協働して、世界各国の政府、国連機関へのアドボカシー（政策提言）の活動も強化しています。



■ 子どものセーフガーディングの取り組み

2019年度は、「子どものセーフガーディング方針」に沿って組織内の体制や手続きの整備を進めるとともに、国内外で協働する関係者とセーフガーディングの考え方を分かち合う機会を積極的に持ちました。

東京の事務局では、セーフガーディングの維持・強化のために、国際協力NGOセンター（JANIC）の「子どもと若者のセーフガーディング・ワーキング・グループ」の一員に加わり、「子どもと若者のセーフガーディングの最低基準のためのガイド」の制作や、子どもの権利条約の実施・普及に取り組む団体の交流の場である「子どもの権利条約フォーラム」などのセミナーで、セーフガーディングの取り組みの経験を共有する活動に参加しました。

海外事務所では、子どもを含む事業関係者を対象に、子どもの権利とセーフガーディングについての聞き取り調査を行い、その結果を踏まえて、それぞれの国の現状により適した方針文書や体制・諸手続きの整備に着手しました。

フィリピンでは、すべての協力センターに配置されている子どものセーフガーディング担当スタッフが、フィリピンで特に深刻になっているインターネットを通じた子どもへの暴力の現状につい

ての研修を受け、協力センターでの活動に取り入れることを進めました。



「子ども会議」の発表準備の相談にのる協力センターのスタッフ

■ 持続可能な開発目標(SDGs)の 達成に向けたアドボカシー活動

昨年に引き続き、持続可能な開発目標(SDGs)の目標16.2の達成に向けた日本国内でのアドボカシー活動として、「子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ(GPeVAC)日本フォーラム」の活動に参加しました。日本政府が目標16.2の達成に向けて作成する「国家行動計画(National Action Plan)」骨子案に盛り込む市民社会側の提案書づくりに参加するとともに、骨子案を協議する円卓会議の場に「いじめの問題」についての専門家の意見を反映させることを支援しました。

■ メディアへの掲載

書き損じハガキや未使用切手の寄付による支援について、朝日新聞・読売新聞の他、雑誌などへの掲載がありました。また、「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンへの協力を呼びかける記事が、杉並区報などに掲載されました。

2019年度に活動報告を行った学校や教会など

ご支援、ご協力くださる学校や教会の皆さまに活動の成果をご報告しています。

- ・ 青山学院幼稚園
 - ・ 青山学院中等部
 - ・ 青山学院横浜英和小学校
 - ・ 青山学院横浜英和中学高等学校
 - ・ アサンプション国際小学校
 - ・ アサンプション国際中学校高等学校
 - ・ 恵泉女学園中学・高等学校
 - ・ 女子学院中学校
 - ・ 生活協同組合パルシステム埼玉
 - ・ 清教学園中学校・高等学校
 - ・ 清心中学校・清心女子高等学校
 - ・ 西南学院
 - ・ 聖望学園中学校
 - ・ 東京女子大学
 - ・ 日本キリスト教団熊本白川教会
 - ・ 日本キリスト教団日立教会
 - ・ 日本キリスト教団福岡中部教会
 - ・ 日本キリスト教団溝ノ口教会
 - ・ 日本福音ルーテル熊本教会
 - ・ 認定こども園善隣園
 - ・ バット博士記念ホーム
 - ・ 福岡女学院幼稚園
 - ・ 福山暁の星幼稚園
 - ・ 福山暁の星小学校
 - ・ 福山暁の星女子中学校・高等学校
 - ・ 普連土学園中学校・高等学校
 - ・ 平安女学院中学校・高等学校
 - ・ 北星学園大学
 - ・ 北陸学院高等学校
 - ・ 明治学院東村山高等学校
 - ・ 酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校
- (50音順)

ほか

NGO・政府機関との連携・協働

より効果的な支援活動を行うため、チャイルド・ファンド・ジャパンは他のNGOや関係機関と協力しています。

- ・ GII/IDI懇談会
- ・ JANIC(国際協力NGOセンター)
- ・ JCC-DRR(防災・減災日本CSOネットワーク)
- ・ JNNE(教育協力NGOネットワーク)
- ・ SDGs 市民社会ネットワーク
- ・ 子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ(GPeVAC)日本フォーラム

京都と熊本で支援者交流会を開催しました！

2019年4月19日、京都で、支援者の方々の交流会を開催しました。13名の支援者の皆さまにご参加いただき、支援を始めたきっかけなど、それぞれの想いをお話いただきました。



京都では、1つの輪になって、一人ひとりのお話に耳を傾けました



熊本では、2つのグループに分かれ、少人数で深く交流しました

また、2019年11月17日には、熊本でも交流会を開催し、24名の方にご参加いただきました。職員からチャイルド・ファンド・ジャパンの活動について報告した後、こちらでも交流の時間を設定。京都の交流会同様、皆さまに様々な想いを語っていただきました。

様々なご支援・ご参加方法

スポンサーシップ・プログラムへの支援

職場全体で、支店で、部署で、チャイルドの成長を見守っていただいています。



関係者みんなで支援

病院内で募った寄付を通してフィリピンの支援プロジェクトへご支援いただきました。



支援により作成された衛生習慣啓発のTシャツ

ポイント寄付で支援

ポイントの寄付を通して、令和元年台風19号被災者支援事業へご支援いただきました。



身近にあるもので支援

・ハガキ/切手を寄付

全国の皆さまよりハガキや切手をご寄付いただきました。

＊新型コロナウイルスの影響により、金額については現在集計中です(2020年9月)。

・古本/物品を寄付

古本または物品(ご家庭で眠っているお品物)を通して、それぞれ421,238円、93,323円ご寄付いただきました。

ボランティア活動で支援

61名のボランティアの皆さまに、ハガキと切手の仕分けや集計、翻訳や発送作業、イベントでのお手伝いをサポートいただきました。翻訳作業は在宅でもご協力いただいています。

基金付き商品の販売による支援

株式会社フェリシモの地球村の基金により、ネパールの学校のトイレ建設をご支援いただきました。



男の子用と女の子用に個室を分けたトイレ

寄付つき自動販売機の設置で支援

自動販売機でお茶やジュースなどの商品をご購入いただくと、一定額が寄付されます。



立花証券

その他のご支援

社員の方の寄付額と同額程度が会社からも寄付されるマッチングギフト制度、社員の方からのご推薦や社内基金を通してご支援いただきました。



キューピーグループ マatchingギフト
「QPeace」



OKI愛の100円募金



遺産・相続財産を寄付

ご自身の遺産やご家族からの相続財産を、「教育」という形で未来を担う子どもたちに贈ることができます。どうぞ事務局までご相談ください。

チャイルド・ファンド・アライアンス

チャイルド・ファンド・アライアンスは、子どもへの支援に取り組む11の団体からなる国際的なネットワークです。子どもたちが本来備え持つ可能性を実現できるよう、貧困やその原因となっている環境を改善するために、60ヵ国以上で1,200万人以上の子どもたち、家族とともに活動しています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月にチャイルド・ファンド・アライアンスに加盟しました。



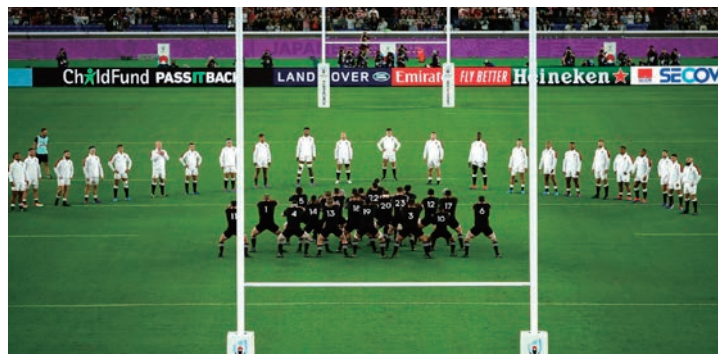
ラグビーワールドカップを通して、アライアンス全体が協働

チャイルド・ファンドとワールドラグビーは、スポーツが持つ力で子どもの未来を変えることを目指して、日本で開催されたラグビーワールドカップ2019に向けた国際的なパートナーシップを結びました。アライアンスが長期間にわたりグローバルに協働する初めての機会となりました。特に、大会開催国にあるチャイルド・ファンド・ジャパン、そしてスポーツと国際協力を組み合わせたプログラムである「チャイルド・ファンド パス・イット・バック」をアジア諸国で展開してきたチャイルド・ファンド・オーストラリアは、このワールドラグビーとの取り組みの中心的な存在でした。

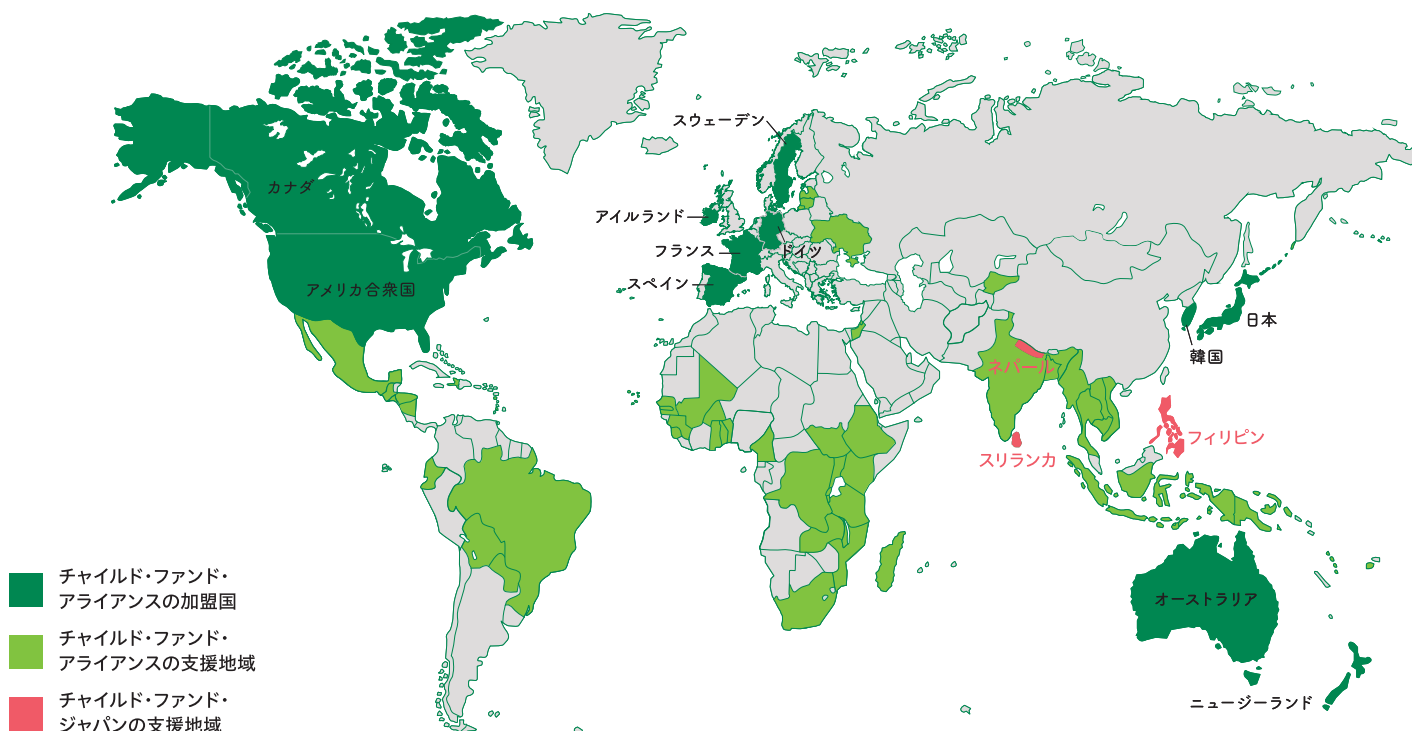
このパートナーシップを通して寄せられた寄付により、「パス・イット・バック事業」をラオス、ベトナム、フィリピン、東ティモール、さらにアジアの他の開発途上国で展開することができるようになりました。また、ワールドラグビーからの寄付は、ワールドカップ開催中に被災

した令和元年台風19号の被災者の支援にも役立てられました。

また、子どもへの暴力がない世界を目指して、チャイルド・ファンド・アライアンスとしての5カ年中期戦略を作り始めました。虐待の形態も様々なので、どの形態に焦点をあててグローバルに取り組んでいくか等の協議を重ねました。そこに新型コロナウイルスの影響が加わりましたが、2020年7月からの中期戦略開始を予定しています。



スタジアムにも、チャイルド・ファンドのロゴが掲載されました(写真左上)

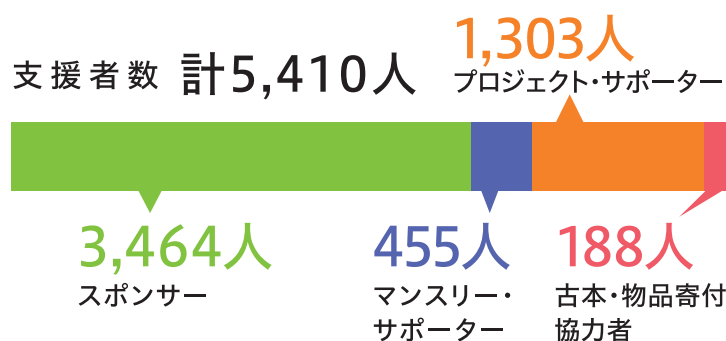


数字で見るチャイルド・ファンド・ジャパンの1年

スポンサー、マンスリー・サポーター、プロジェクト・サポーター、古本・物品寄付協力者としてご支援くださる皆さまと、フィリピン、ネパール、スリランカのチャイルドの数、支援を離れたチャイルドの数、決算報告の数字をまとめました。

※数字はいずれも2020年3月31日時点

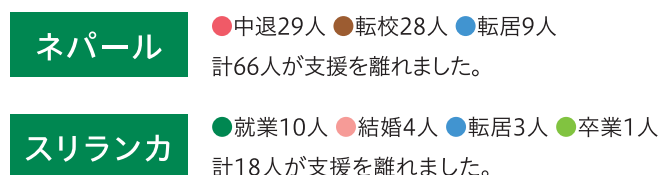
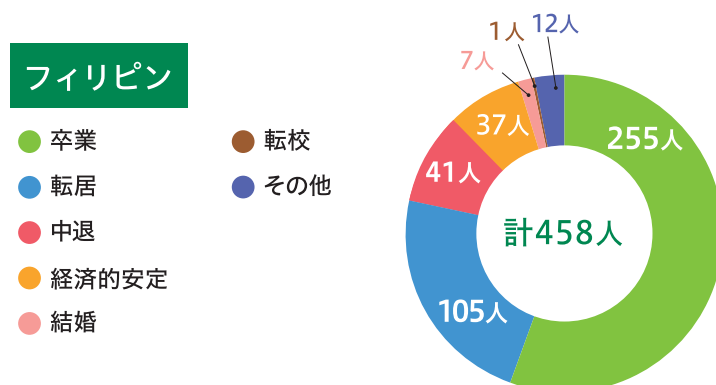
支援者数と支援チャイルド数



※複数ご支援くださっている方はそれぞれの支援方法でもカウントしています。
※新型コロナウイルスの影響により、ハガキ協力者の人数は現在集計中のため、グラフには示していません(2020年9月)。



チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を離れたチャイルド(2019年度)

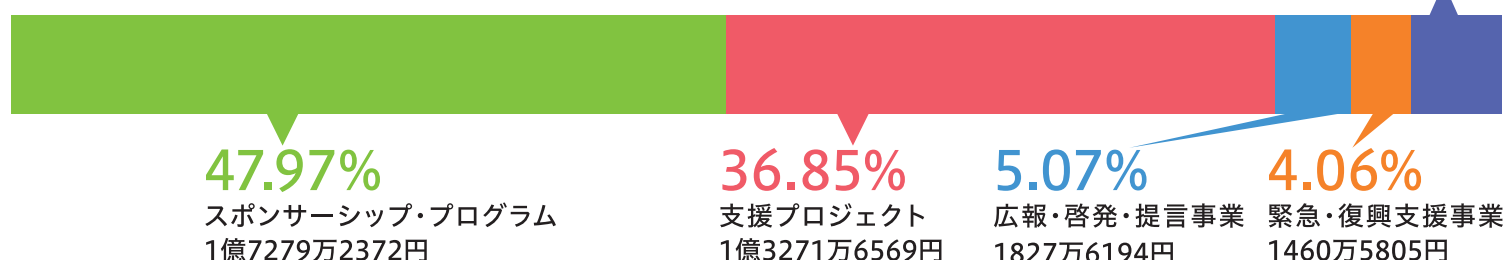


決算の概要

収入内訳 合計3億4,923万5,442円



支出内訳 合計3億6,017万6,288円



2019年度年次報告書

チャイルド・ファンド・ジャパンは、
1975年より、アジアを中心に貧困の
中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動を
しています。



Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ここに掲げるビジョン(目標)、
ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン 【目標】

すべての子どもに開かれた未来を約束する
国際社会の形成

愛のバトンタッチ

チャイルド・ファンド・ジャパンは、第二次世界大戦後、海外からの支援を通して、日本の戦災孤児の成長を守ることから活動を始めました。時代が変わり、支援の受け手から担い手へと立場が変わっても、そこに一人ひとりの子どもが希望を持って生きることのできる社会を目指す姿勢は変わりません。

ミッション 【使命】

生かし生かされる国際協力を通じて
子どもの権利を守る

子どもの笑顔のために

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ビジョンを達成するために、支援を通じてつながるすべての人々が、様々な違いを超えて、お互いが人生に意味を見出し、「生きていてよかった」と思える国際協力を実践することを通して、子どもの権利を最優先に位置づけた活動を展開します。

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン

理 事 長 長山 信夫
事 務 局 長 武田 勝彦
所 在 地 〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
T E L 03-3399-8123
F A X 03-3399-0730
E - m a i l childfund@childfund.or.jp
U R L <https://www.childfund.or.jp/>



特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)の「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について、当団体が適切に自己審査したことを示しています。チャイルド・ファンド・ジャパンは、社会的責任を果たし皆さまからの信頼に応えるため、「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークを取得しました。

